

廃寮化攻撃粉碎！来春入寮募集停止阻止！

12.15 全学集会

すべての学友の皆さん！ 今年度に入ってきて以来、寮自治の根幹である自主入退寮選考権制奪＝「在寮者確認」（又駆逐皮切り）にして、当局は明確に寮つぶしを企図して様々な攻撃をかけてきました。2寮に対する厚生（図書、寮寮費）予算のカット、寮生の交流の場である食堂つぶしを目論んだ後任炊フの不補充やガス化の寮生負担強要攻撃、そして遂には寮生各個人まで、7.14付文書、「あなたを寮生とは認めません」もって寮解体の意志を露げにしたのである。吉田・熊野寮友を先頭とした我々のごくささやかな反撃一突り込み、署名…一に対して京都府警機動隊を導入しては弾圧を加えしてきた。これらはすべて当局が一方的に我マとの間の国交による不融通を破棄し、それに抗議する寮生の声を握りつぶす形で行われてきたものであり、阪大・國大などに見られるごとく、入寮募集停止→「不法占拠」のレッテル貼り→寮自治解体、への布石である。そして、たとえ寮自体は残しても新寮4条件（入退寮なし、食堂なし、完全個室、負担区分）を押しつけ、寮を単なる国立アパートにしてしまうのだ。12月8日の評議会では我々の斗争の高揚の前に入寮募集停止の発議は見送られたとはいって、1月期の評議会・教授会による強行決定の可能性は、まだ強い。

では何故今、寮が潰されんとしているのであるか。
学費の右玉の的再編、刑法全面「改正」や、三里塚二期着工 攻撃のようだ。日帝の侵略遂行体制つくのの一環として、学生を個々に分断し、自主的活動を殲滅していく事により、大学再編をなしきる為のものとして、まずある。すなはち、元学生部長三ドリ川の発言にもあるように「寮の次は西部をつぶす」というふうにすべての活動を当局の制限下において、学生を当局へ与える「専門」のみに縛りつけるのである。つまり、熱帯農業独立農政や熊取原野焼などに典型的に見られる現在の国家体制に奉仕するようを學問と、学びとは思はずに思はせないにせり！ ハハハ

「帝国大学」として大学を純化させんとしているのである。又、学寮はとりわけ、学内において最大の「紛争の震源地（アシナガ谷）」であり、寮を解体する事によって、学生戦争の解体を企図しているのだ。

12.15へ結集しよう！

12.15とはそもそも、又前の1979年、熊野寮の炊フさんが退職する際に、当局が過去の確約を踏みにじり、炊フさんの補充を行わず、なおかつ炊フさんの退職を生んだ、臨時という不安定な立場を強要したために、怒りに燃えた寮生が当局に団交要求を行なった。しかし、当局は、折衝の場で、罵詈りを繰り、まともな対応をせず許し難い事にその場で暴力事件をテッキ上げ、3名の寮生を不当逮捕した憎むべき日である。

2年後の今、寮は自治寮の存在をかけ、当局との全対決局面に入っている。来春入寮募集停止はこの12月～1月期の斗争がどれだけ高揚できるか否かにかかっているのだ。我々は1979.12.15の暴挙を改めて糾弾すると共に、廃寮化攻撃粉碎の固い決意をもって12.15集会への結集を呼びかける。15日にはすべての授業をボイコットし、A号館前を埋めつくし、当局に我々の力を任せつけやろう！ 寮斗争に勝利し、京大学生戦線のさらなる飛躍を期して、共に斗わん！

12.15 廃寮化攻撃粉碎！ 来春入寮募集停止阻止！

京大全学集会

主催：吉田寮・熊野寮自治会

12時～

教養部A号館前

